

1. 調査目的等

小学校2年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

平成29年4月、全学年において、標準偏差値50を上回る。

3. 指標にむけての取組

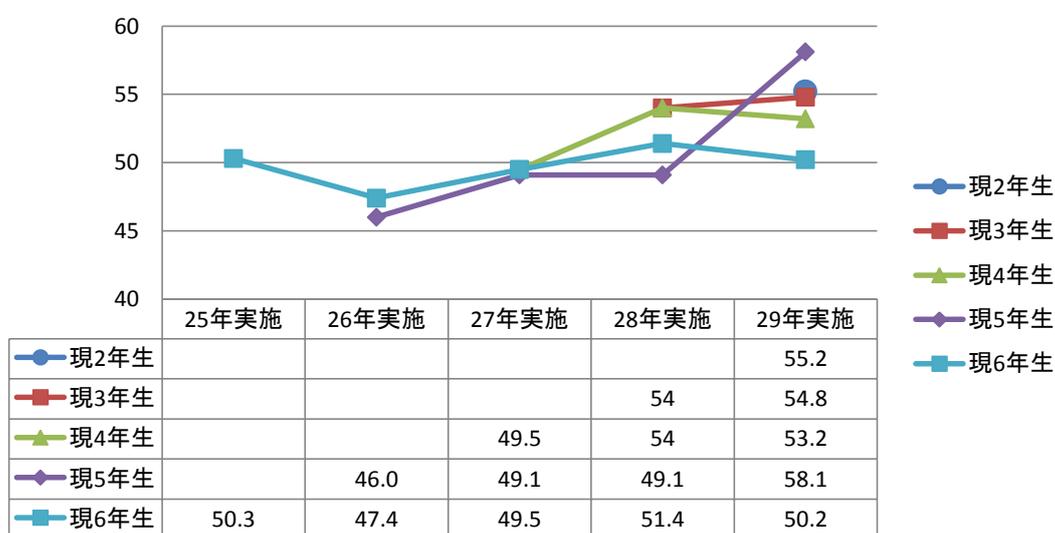
- 基礎基本の徹底(朝活・宿題等の工夫)及び上学年における活用問題に挑む時間の設定
- 持続的・継続的な授業改善の日常化(「書く」活動の充実 研修の充実等)
- 課題把握と早期改善(取組のPDCAサイクル化と即時的な授業改善の実施)

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)	49.3	46.8	49.9	52.4	54.0
嘉麻市(B)	49.8	50.0	50.8	50.7	51.5
(A)－(B)	-0.5	-3.2	-0.9	1.7	2.5
標準偏差値との差 (A)－(50)	-0.7	-3.2	-0.1	2.4	4.0

各学年の推移



5. 各学校における分析

□ 学校全体としては、国語53.4、算数54.5、全体平均54.0と、2年連続で偏差値50を上回った。また、本年度は、全学年で50を上回ることができた。これは、算数科における複数体制での授業の実施や、全職員による朝の活動への取組、家庭学習「10分×学年数+10分」の徹底が実を結んだことが考えられる。特に家庭学習の取組では、85%の児童が「行っている・どちらかといえば行っている」(7月実施のアンケート結果)と答えている。学びに向かう力(心)が徐々に培われつつあることも、要因の一つであると捉えている。

6. 各学校における今後の取組

【学力の基盤づくり】

- 算数科における全学年、複数指導体制による授業を引き続き実施する。
- 漢字・算数検定(毎学期)の実施による「読み・書き・計算」の定着、及び学習意欲の醸成を図る。
- 1・2年生におけるMIMの計画的な実施による、初期段階での読みの躓きの克服と、読むことへの意欲の向上を図る。

【授業改善】

- 授業改善に向け、講師招聘による校内研修・公開授業を全学級実施する。
(自分の考えを作り、根拠を示しながら交流できる授業の日常化を目指す。)
- ノート指導及び板書のあり方についての共通理解と共通実践を行う。《新規》

【家庭との連携】

- 家庭学習「10分×学年数+10分」の徹底への協力を得ることで、学習習慣の定着を目指す。(日々の達成率85%以上。)
- 個に応じた課題の与え方や週末課題の取組の改善を図ることで、学力の定着を目指す。(月曜の提出率80%以上。)《新規》
- 「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底への協力を得ることで、気持ちの良い朝のスタートを目指す。

【補充学習】

- 朝のチャレンジタイムの充実を図る。
 - ・ 複数体制での実施を継続する。
 - ・ アシストシートの活用。
 - ・ 全国学力テスト過去問の活用。
- 単元テストの結果を受けての補充学習を確実に実施する。《新規》

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修における授業参観指導を実施する。
- ◆ 基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個の学習課題に応じた週末課題の個別化を推進する。